



谷戸二小だより

12月号 令和3年11月30日

西東京市立谷戸第二小学校
校長 鈴木 優介

広げよう 関わりの「輪」

校長 鈴木 優介

令和3年もいよいよ師走を迎えることとなりました。毎年この時期になると、日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」が話題になります。その年にあった出来事や人々の思いを漢字1字に表すという企画で、25年以上も続く年末の恒例イベントとなっています。

「今年の漢字」が始まったのは1995年。この年に選ばれた漢字は「震」でした。甚大な被害が出た阪神淡路大震災が起こったことをご記憶されている方も多いのではないかと思います。2010年は夏の「暑」さが極まり、全国の平均気温が観測史上最高を記録して、熱中症にかかる人が続出しました。2011年は東日本大震災が起こり、助け合うことの大切や身近でかけがえのない人との「絆」を実感した年でした。昨年、2020年は、コロナ禍を象徴する「密」の字が選ばれたことは、私たちの記憶にも新しいところです。

このように「今年の漢字」を集めてみると、その年の世相が思い出されたり、当時の自分を振り返ったりすることができます。また、今年はどうな漢字で表せば総括できるだろうか、このような出来事があったからこの漢字ではないか等、それぞれが自由に予想できるところが楽しいです。漢字の意味や世の中の動きにも関心が高まるので、国語や社会科の学習にも効果的です。

ここで、本校の一年間を振り返り、谷戸第二小学校の「今年の漢字」を考えてみたいと思います。極めて個人的な意見ではありますが、私は「輪」を選びたいと思います。

2020年は新型コロナウイルスの世界的大流行が始まり、感染拡大防止の点から、教育史上初の休校期間が3か月続きました。学校再開後も、多くの学校行事や交流行事が中止になりました。外部の方の来校も制限され、人と人との関わりが必然的に希薄化の一途を辿りました。もちろん、これは本校に限ったことではありません。日本中の大半の学校に共通する歴史的な出来事でした。

2021年の今年もコロナ禍は続き、緊急事態宣言も予想以上に長期化しました。しかし、その中でも感染対策や開催方法等の工夫を重ねることで、人と人との関わりの「輪」は少しずつ広がっていきました。異学年交流の「谷戸二こども祭り」、保護者の皆様をお招きできた「体育発表会」「やとにつ子展(展覧会)」等は、その象徴的な成果です。また、GIGAスクールの教育活動も驚異的な速度で進み、子供たちの中にはタブレットを活用した学びの「輪」が大きく広がっています。タブレットを使いながら、お互いの計算力を競い合う「天下一計算王決定戦」も、現在開催中です。

東京五「輪」が開催された2021年があと少しで終わり、間もなく新しい年が幕を開けます。おそらく2022年も先行きが見えにくい年になるでしょう。しかし、その中でも、本校は「関わりの『輪』」を大切にしながら、教育活動を力強く進めていきたいと考えています。そして、学校から家庭、地域へと、子供たちを温かく包み込む「輪」を、更に大きく広げていくことを目指します。

今月の行事予定(12月)

1	水	地区班下校(掃除なし) 全学年4時間授業	16	木	体力カード配付 レビュータイム
2	木	安全指導 レビュータイム	17	金	
3	金		18	土	
4	土		19	日	
5	日		20	月	体力カード回収
6	月	委員会活動	21	火	
7	火	保護者会1・2年生	22	水	理科見学(4年生)
8	水	4時間授業(6年3組のみ5時間目研究授業)	23	木	大掃除 給食終 持久走月間終
9	木	保護者会3・4年生	24	金	終業式
10	金	保護者会5・6年生 避難訓練	25	土	
11	土		26	日	
12	日		27	月	冬季休業日始
13	月		28	火	
14	火		29	水	1月11日(火)3学期始業式 給食なし4時間
15	水	4時間授業	30	木	

やとにっ子展



1年生は、会場に着くと、まるで宝箱を開けたかのように、目を輝かせる子供たち。思いを込めて作り上げた自分の作品を見つけると、「あったあ！」と、とても嬉しそうでした。上級生の作品は、「さすがだなあ」「自分もいつか作ってみたいなあ」など、尊敬と憧れの眼差しで、興味深く鑑賞していました。

初めての展覧会で想像以上にたくさんの作品が体育館に集まっています、驚きを隠せない2年生。「他の学年も頑張っていたんだ！」と、作品鑑賞を楽しみました。1年生の作品には、「1年生も、すごいね！」とお兄さんお姉さんの表情になっていました。



3年生は、他の学年の作品を見て「どうやって作ったんだろう。」「こんなに細かいところまですごいなあ。」と、感心しながら鑑賞していました。自分の作品を友達に見てもらおうと、嬉しそうにしていました。



4年生は、上級生の作品を見て、尊敬したり、憧れをもったりして、楽しく鑑賞しました。その様子を鑑賞カードに記録して、2年ぶりのやとにっ子展を味わいました。準備、片付けも立派でした。



じっくり腰を据えて一つ一つの作品を鑑賞する姿が見られました。下学年の作品を見て笑顔になったり、6年生の作品を見て「わあ！」「来年、楽しみだな。」という声が聞こえたり。5年生は、会場片付けもしました。自分たちも行事を支える一員であることを実感し、高学年としての自覚を深めることにもつながった展覧会でした。



6年生は、小学校生活最後の展覧会。最後の展覧会は、会場の準備から始まり、展覧会を作り上げていきました。展覧会当日の鑑賞の際には、一目散に1年生の作品の場所に行く子が多かったです。「あ、〇〇ちゃんの作品きれいだな」など、他の学年の子の良さをたくさん発見している様子でした。最高学年としての姿を見ることのできる展覧会でした。



～展覧会を終えて～

今年は、昨年にはきつづきコロナ対応下の展覧会になりました。当日の鑑賞人数を制限するなど、ご家庭にご協力いただく場面も多くあり、感謝申し上げます。2学期はリモート授業期間が1か月あったこともあり、準備期間が不足する中、子ども達はとても頑張って作品を完成させました。子どもの作品は、作る過程でその子の思いが吹き込まれるものですので、展覧会で展示台の上にきれいに並べて置くことは、「あなたの存在は大切なものですよ」という子どもへのメッセージになっていると思っています。学校に見に来られた方や、やとにっ子たちが、体育館の作品やカラフルに並べたペットボトルから温かい気持ちを受け取ることができたら、とてもうれしく思います。(展覧会委員長)